Ｃ.自然環境保全活動用

**生態系ネットワークチェックリスト**

対象：すでにある生物の生息生育空間を管理し、質の維持・向上を図る活動

●はじめに

・本チェックリストは、項目にチェックが入れば、プラスの取組になっていると判断されるもので、チェックが入らなくても、マイナスの取組と判断されるものではありません。この点を理解していただき、積極的に活用してください。

・本チェックリストを活用することで、配慮の方向性が分かり、個々に取り組むよりも社会的評価が得られやすくなります。

・このチェックリストは、愛知県に提出してください。

●本チェックリストの使い方

・チェックリストは、【準備段階】と【保全・管理段階】に区分しています。

・事業前と事業後の結果を、《あいちミティゲーション定量評価手法》を活用して、点数化してください。これにより取組の成果がアピールしやすくなります。

・活動の予定を検討しているできるだけ早い段階で、愛知県にご相談ください。

|  |
| --- |
| 団体・組織名　など |
| 活動場所（地図を添付してください） |
| 活動の名称 |
| 活動期間 |
| 活動の概要（内容がわかる資料を添付してください） |

■チェックリスト

【準備段階】

[ ] Ｃ１ 資料やヒアリングなどから、事業・活動予定地及び周辺の植生、動植物の生息生育状況、基盤となる土地条件を把握した。

[ ] Ｃ２ 現地調査を実施し、事業・活動予定地及び周辺の植生や動植物の生息生育状況を把握した。

[ ] Ｃ３《生物多様性ポテンシャルマップ》などを用いて、事業予定地や活動場所の生態系ネットワーク上の位置づけを把握した。

[ ] Ｃ４ 目標種や目標環境を設定した。

[ ] Ｃ５ 専門家や地域の生態系ネットワーク協議会に相談した。

[ ] Ｃ６ 植栽に在来種を活用することを検討した。

【保全・管理段階】

[ ] Ｃ７ 外来種の拡大防止に努めた。

[ ] Ｃ８ 地域住民や企業の参加による管理を行った。

[ ] Ｃ９ 生きものの生息生育を考えた管理を行った。

[ ] Ｃ10 定期的に生きものの調査を行い、自然の保全・再生状況を把握した。

[ ] Ｃ11 必要に応じて、管理方法などの改善を行った。

[ ] Ｃ12 事業や保全活動の内容や成果について広報し、取組の普及・拡大につなげた。

[ ] Ｃ13 継続的な管理を行うための管理計画を策定した。

　《あいちミティゲーション定量評価手法》による事業前と事業後の点数

結果　（事業前　　　　　　ポイント）　⇒　（事業後　　　　　　　ポイント）

　その他、工夫した点・アピールポイントなど